

テーマ

認知症を考える多職種研修会

第1部

多職種シンポジウム

「在宅で認知症をさせる宅職種によるトークセッション」

第2部

認知症事例検討会

「砂川市認知症初期集中支援チームでかかわる事例から」

申請者名

内海久美子

助成対象年度

2015年度前期

提出年月日

2016年5月30日

認知症を考える多職種研修会

感想

当法人は、北海道中空知地域における医療、保健、福祉の関係者及び家族介護者、ボランティア等に対して、認知症疾患の診断・治療・介護・予防の啓発などに関する事業を行ない、もって地域保健・医療福祉の進化、発展に寄与することを目的とし活動している。

新聞やTVの波及、診断治療技術の発達など住民に「認知症」は身近な病気と捉えられるようになり、早期発見治療の重要性が増してきている。

試行錯誤により研修等を運営してきたが、今回は各領域間で語り合える場を提供し、当事者が地域で暮らし続けるための創意工夫について専門職・ボランティア等4名によるトークセッション（自由討論）と19グループ程度の大規模グループディスカッションを企画した。これまでと違った「議論の場」と「大規模スタイル」により、参加者の顔の見える関係と認知症に対する共通理解の深度を目指した。

第1部：シンポジウム：在宅で認知症を支える！ためのトークセッション

日々の業務では、医療と介護の連携が行われているが、今回在宅（地域）で認知症の方を支えるをテーマに、多職種の連携をシームレスなものへとさらに進めるため、4機関（小規模多機能管理者、認知症支援ボランティア団体・認知症カフェ主宰者・クリニック併設の居宅介護支援事業所のケアマネジャー）から、その機能や手法等をご紹介いただきその後、フリートークを行った。

小規模多機能では柔軟な通所、宿泊の対応、認知症支援ボランティアコーディネータからは、有償600円の活動はその後増加し、受診付添い等30名も会員が介護保険ではできない隙間の支援活動していることがわかった。美唄市の認知症カフェ「ぴば」では、ボランティアと行政の共同運営により、第2のデイサービスの機能としての隙間支援を行っているという。クリニック併設の居宅介護支援事業所ケアマネジャーからは、認知症の物盗られ妄想や徘徊対応などに向き合い、ご近所などにも協力いただきながら、インフォーマルな支援に奔走している様子があった。

感想として、管内には、まだまだ知らない社会資源が埋まっており、本当に私たちは有効に活用しているのかを再考させてくれるセッションとなった。またそれぞれの活躍ぶりから、フォーマルサービスの隙間を埋める支援行っているという共通した様子が見えた。つまり、多くのインフォーマルサービスがある時代であり、それは即時対応でき、誰もが利用できるものだという柔軟性が求められているのだと思った。

第2部：認知症事報告：砂川市認知症初期集中支援チームでかかわる事例から

オレンジプランにおいて、全国でもこれから稼働を目指す自治体がある中、道内も当市を含め数ヶ所のみである認知症初期集中支援チーム。平成26年9月から稼働しているその実態について事例を交えてチーム員の一人である福田氏から報告をしていただいた。

初期集中支援チームの機能、これまでアウトリーチした実績報告と、特異事例を報告された。認知症を疑う在宅生活者を医療、介護保険サービスにつなげてより良い在宅生活を継続していただくことがチーム員のかかわる最大のテーマである。夫婦世帯で、3年物間入浴拒否等があった妻の介護に困った夫が地域包括支援センターに相談に来られたことを契機に、チーム員が訪問し、かかりつけ医による往診、DSセンター職員と連携した通所利用の開始など、関係機関との連携により清潔で安全な生活を取り戻した事例だった。

このことから、チーム員だけでは解決できない生活支援について、かかりつけ医、DS職員等の協力の下、終結できた事例であり、参加者は、改めて自身の日頃の連携の再考や見直しをする機会にもなったと思う。

第1部、第2部を受けて、参加者を19のグループに分けて、グループディスカッションを行った。これまで約70名程度の事例検討会を行っているが、今回148名と定員を大きく超え、大規模スタイルとなった。第1部、2部を受けて、新たな隙間支援の在り方、チーム員のアウトリーチの価値、地域支援事業への活路、自身の職種への振り返り等のグループディスカッションを行った。

アンケートから、「初期集中の事例でDSにつながった声掛けのところは勉強になりました。もっと地域の人に認知症を知ってもらいたいと思いました」「小規模多機能の必要性をもっと地域に根付いていただけたらと思いました」「介護保険では補えないぽっけの活動これからも必要なので、発展して行ってほしいと思います」など研修会全体に向けた広範囲なご感想をいただいた（別添アンケートご参照）。

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

認知症を考える多職種研修会



在宅で支えるには？フリートークセッション！

2018年にまでできるのか？初期集中支援チーム！でかかわる事例とは
顔の見える関係めざして！大規模グループディスカッション！

プログラム

第1部 【シンポジウム】

在宅で認知症を支える各職種によるトークセッション

第2部 【事例検討&グループディスカッション】

砂川市認知症初期集中支援チーム「活動と事例報告」



日時 **2016年5月17日 (火)**

締切

5月13日

18：00～20：00 定員 130名

会場 **砂川市地域交流センターゆう 大ホール**

砂川市東3条北2丁目3-3 0125-54-3111 JR砂川駅裏 駐車場有

主催 **NPO法人中空知・地域で認知症を支える会**

お問い合わせ・お申込み

砂川市立病院 認知症疾患医療センター 大辻

☎0125-54-2131 (内1711) Fax0125-28-9605

mail : seiji-psw@med.sunagawa.hokkaido.jp

公益財団法人 勇美記念財団 在宅医療助成
「認知症を考える多職種研修会」
プログラム

主催：NPO 法人中空知・地域で認知症を支える会

後援：砂川市立病院 認知症疾患医療センター 一般社団法人日本認知症ケア学会

会場：砂川市地域交流センターゆう 大ホール

日時：5月17日火曜日 18:00～20:00

定員：130名（1グループ8名×17グループ）

第1部 18:00～18:50

多職種シンポジウム：テーマ「在宅で認知症を支える」トークセッション

進行役：NPO 法人中空知・地域で認知症を支える会理事長 内海久美子

シンポジスト

①小規模多機能施設における認知症の方の利用について

陽だまりの郷 管理者 安藤騰志さん（新十津川町）

当地域には小規模多機能施設は少ない。認知症の方を地域で支えるため、DS や SS 等を柔軟に利用しながら、家族の介護ストレスも軽減している。小規模多機能施設の機能と今後の可能性について実践を伺う。

②美唄市認知症カフェ「ぴぱ」の活動

社会福祉士 飛渡祐輝さん

最近各地に設置されつつある、ホットな社会資源「認知症カフェ」行政主導で場所の確保と予算措置を来ないボランティアと行政職員で運営を開始。DS とは違った時間と空間を提供している。現状を伺う。

③認知症支援ボランティア「ぽっけ」の活動（砂川市）

認知症支援ボランティアぽっけ コーディネーター 照井和子さん

「ぽっけ」はすでに活動開始から6年目。年々活動時間は増加し、年3,300時間。ボランティアの依頼から会員へ活動を振り分けていくコーディネーターの役割について、その達成感と課題について語っていただく。

④江部乙地区を支えるケアマネジャーの活動（滝川市）

えべおつファミリークリニック ケアマネジャー 能登美智子さん

滝川市江部乙町。人口約3,700人の地域に一か所あるクリニック。往診、ガン末期の看取り、認知症高齢者の治療等、総合診療を一手に担う。このクリニックには居宅支援事業所が併設。認知症で徘徊、妄想による近所とのトラブル、高齢者虐待等、様々な課題に遭遇し寄り添うケアマネジャーがいる。介護サービスでは対応できないインフォーマルサービスを駆使した、ケアマネジメントを語っていただく。

第2部 19:00～19:20

進行役：NPO 法人中空知・地域で認知症を支える会 成田 洋

認知症報告：砂川市認知症初期集中支援チームでかかわる事例から

事例報告者：砂川市立病院 認知症疾患医療センター 認知症看護認定看護師
(砂川市認知症初期集中支援チーム員) 福田智子さん

全国でも現在 300 か所程度の稼働であり、道内も当市含め十数か所の認知症初期集中支援チームがある。初期集中支援チームとは？そして現在、砂川市内の認知症高齢者宅に訪問し診断・治療・介護サービスへと早期につなげるため、稼働する中、一つの事例を報告する。

第3部 19:20～20:00

グループディスカッション

各グループに進行役があり、第1～2部を通してディスカッションを行います。

~~~~~メモ~~~~~